

授業概要

科目名		運動障害性構音障害Ⅱ				授業の種類	演習	講師名				
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2	後期
【授業の目的・ねらい】 運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な評価について理解できる。												
【実務者経験】 言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリテーションに従事。												
【授業全体の内容の概要】 テキストや音声、動画等を用いて、運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に理解する。臨床に必要な基礎的な評価について学び、実践する。												
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に理解できる。 臨床で必要とされる基礎的な評価を実践できる。 評価結果を統合、解釈し、まとめることができる。												
回数	講義内容										準備物(教材)	
1	運動障害性構音障害のリハビリテーションの概要を理解できる。										テキスト	
2	運動障害性構音障害の評価の概要を理解できる。										テキスト	
3	運動障害性構音障害の訓練の概要を理解できる。										テキスト	
4	標準ディサースリア検査の概要が理解できる。										テキスト	
5	標準ディサースリア検査の一般的情報収集・発話の検査ができる。										テキスト	
6	標準ディサースリア検査の一般的情報収集・発話の検査ができる。										テキスト	
7	標準ディサースリア検査の一般的情報収集・発話の検査ができる。										テキスト	
8	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。										テキスト	
9	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。										テキスト	
10	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。										テキスト	
11	標準ディサースリア検査の発声発語器官検査ができる。										テキスト	
12	標準ディサースリア検査のまとめと結果の解釈、ICFに基づいた評価ができる。										テキスト	
13	標準ディサースリア検査のまとめと結果の解釈、ICFに基づいた評価ができる。										テキスト	
14	標準ディサースリア検査のまとめと結果の解釈、ICFに基づいた評価ができる。										テキスト	
15	失語症・発話失行との鑑別診断ができる。										テキスト	
【使用教科書・教材・参考書】 『ディサースリア臨床標準テキスト 第2版』医歯薬出版 他の科目の使用教科書等を使用する場合があります。その際は随時指示します。												
【準備学習・時間外学習】 あらかじめテキストの内容を確認してから授業に臨んでください。 また、授業後の復習も欠かさずに行ってください。												
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。												